

システム概要

- ① 専用タブレット端末を活用し作業現場において作業実績を入力。
- ② 農薬の希釈倍率の計算にも活用できるほか、作業履歴から農薬や肥料の使用回数がチェック可能。
- ③ 専用タブレットのデータをパソコンに移行し、ローソン本社との情報共有に活用。



専用タブレット端末



作物選択画面



圃場選択画面



導入経緯・背景

- 設立は平成22年。経営耕地面積は約6ha。こまつな、ほうれんそう、だいこん、にんじん等を生産。
- ローソン本社が全国各地のローソンファームの栽培履歴や作業情報の状況を一括管理する目的で平成24年から「営農支援システム」を導入。
- 肥料・農薬の誤使用の回避や生育に関する課題の共有に役立っており、さらには作業実績等を蓄積することにより、社員の効率的な技術育成に寄与。



導入者コメント(効果・課題等)

- 現場においてタブレット端末で作業実績を確認・入力できるので、作業ミスや入力漏れがなくなった。
- ローソン本社でも作業履歴を一括管理・チェックできるため、ブランドの維持、向上につながっている。
- 現在、地区名や所有者名により、ほ場を特定する仕組みになっている。今後の規模拡大の可能性も考慮し、地図等を活用して直感でほ場を特定できる仕組みを期待。
- ローソン本社としては、効率的な店舗への供給調整ができるよう、精度の高い収穫量予想が可能となるまで情報の精度が上がることを期待。
- 今後、写真を添付できる機能や試験場の病害虫データ等とのリンク機能が追加されることを期待。
- 将来的には蓄積したデータを分析し、病害虫対策や作業計画の立案への活用も視野に入れている。